

臨床材料から検出された *Staphylococcus argenteus* の細菌学的報告

◎千葉 栄里¹⁾

北部地区医師会病院¹⁾

【はじめに】 *Staphylococcus argenteus* は *Staphylococcus aureus* complex に含まれる。*S. argenteus* は特に亜熱帯地域で高い報告である。我々は MALDI-TOF MS 導入以前に *S. aureus* と同定された菌株からの *S. argenteus* 検索と臨床材料から検出された *S. argenteus* の細菌学的特徴と文献的考察を含め報告する。

【材料と方法】 2018~2022 年の保存株 (328 株) について MALDI-TOF MS による再同定を行った。*S. aureus* staphyloxanthin 欠損株 (以下 *S. aureus* (W) / 12 株) と *S. argenteus* (12 株) の各種性状 (API staph 32 Biochemical reaction, Coagulase test, Hemolysis, MALDI-TOF MS Spectrum, Susceptibility) を比較した。

【結果】 保存株 *S. aureus* は MALDI-TOF MS 再同定でもすべて *S. aureus* と同定された。検出された *S. argenteus* は 19 株 (保存 12 株) で呼吸器材料が約 70% を占めた。男女比 (14:5) 男性に多く, 50 才以上が 16 株であった。API staph 32 ID system では *S. argenteus*, *S. aureus* (W) はすべて *S. aureus* と同定された。*S. argenteus* 12 株すべてで β 溶

血がみられた。Egg yolk agar での mannitol 分解能は *S. argenteus* (10 positive, 2 negative), *S. aureus* (W) (11 positive, 1 non-growth) であった。Staphylococci 3 type での Coagulase coagulation time と有意差は認めなかった。MALDI-TOF MS Spectrum 解析では *S. argenteus* 12 株で 5200 m/z, 5900 m/z に peak を認めたが、*S. aureus* (W) でも 5/12, normal *S. aureus* 6/12 認め, species による特異的 peak は確認できなかつた。

【まとめ及び考察】 *S. argenteus* は *S. aureus* 以上の病原性を有する重要な病原体であり、特に血液培養検出 *S. argenteus* の死亡率は *S. aureus* 以上に高率であることが報告されている。しかし *S. argenteus* colonies は Coagulase negative staphylococci と誤認される形態特徴を持ち、従来法や生物学的同定法では *S. aureus* と誤同定されることが報告されている。今回我々は特に *S. aureus* staphyloxanthin 欠損株と比較したが、両者の区別はできなかつた。よって、検査室は検出菌種の適切な臨床的重要性を報告する必要がある。北部地区医師会病院 0980-54-1111 (代)